

世代をこえて、受け継ぐ。
SDGs達成へのチャレンジ
ガールスカウト東京都第十二団の



2022.09.19

#ガールスカウト #子ども未来国連 #としまの未来

[OVERTURE]

豊島区で15年間、活動している「ガールスカウト東京都第12団」。今年の1月に開催された『SDGs未来都市！子ども大使スペシャルイベント』に参加するなど区に関連するイベントにも参加するほか、ウクライナ支援活動や緑化活動などにも日々取り組んでいます。ご自身も子どもの頃からガールスカウトに参加し、現在も指導者として活動に取り組む五十井八恵子さんにお話を伺いました。



Profile

五十井 八恵子

Yaeko Ikai

ガールスカウト東京都連盟の約90カ団の地域グループの中で、第12団の団委員長を務め、指導を行う。自身も小学生低学年の頃から、ガールスカウトの活動に参加。豊島区近隣地域の大人、子どもを含めた約50名のメンバーとともに日々活動に取り組む。

「子どもたちがのびのびと育つとしま」の姿とは――。

9月の初旬、区制90周年記念事業のシンボル事業の1つである「SDGsアイデアコンテスト」に応募するためにアイデアを考える子どもたちの姿がありました。「住み続けたい未来の豊島区」をテーマにアイデアが募集され、2022年9月23日「豊島区こども未来国連会議」で子どもたちが未来のまちの姿について話し合います。

アイデアを考えるガールスカウト東京都第12団の子どもたちの表情は、真剣そのもの。実は、当日集まったガールスカウトメンバー全員がSDGsを既に知っており、子どもたちの向き合う姿に大人たちも身が引き締まります。



9/23豊島区こども未来国連会議に参加すべく、SDGsアイデアコンテストにチャレンジ



豊島区SDGs未来都市推進課の職員がSGDsやアイデアコンテストの概要を解説しました。



五十井「第12団ではジェンダー問題・環境問題への問題提起と実践を、何年も前から幅広く取り組んできました。特に印象に残っているのは、豊島区でも多くの人が避難した大雨被害の後のこと。50年に1度といわれる大雨が『なぜ毎年』来るようになったのか。ガールスカウトの活動の一環としてその原因をみんなで調べました」

勉強会を開催し、メンバーみんなで地球温暖化を止めるためにどうしたらいいのか。「電気を無駄遣いしない」「ペットボトルごみを減らそう」など自分たちにできるさまざまなアイデアを考えたと話します。

五十井「ガールスカウトの活動の行き着く先は、SDGsにつながっています。数年前に豊島区にSDGs特命大使の制度ができた際は、迷わず参加しました。昔は『人を助ける』がガールスカウトの目標でしたが、今はそれも当たり前。『自ら考えて、行動を起こす』ことがとても大切です。ガールスカウトは、子どもたちに体験を通じて自ら学ぶ場であり続けたいですね」

自身もガールスカウトに参加し、リーダーとしても活動を続けてきた五十井さん。団委員長としての今は、メンバーの子どもたちが幼稚園児から大学生になりリーダーとして成長する姿を見て、大きな喜びを感じるそう。世代をこえて、持続可能な社会を目指すアクションが受け継がれています。

五十井「豊島区のすてきなと思うところは、子どもがのびのびと育つまちであること。これからもさらに『子どもがやろうとすることを応援するまち』であり続けてほしいと思います」

ガールスカウトの前向きなアクションが、これからのとしまの未来をさらに鮮やかに彩ることでしょ。

[NEWS]

ガールスカウト東京都第12団の「活動記録」をブログで紹介

ガールスカウト東京都第12団の活動ブログ。日曜日に実施される活動の内容を紹介しています。

―― 関連するSDGs ――



SDGs未来都市 豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています